

〈ささのはクラブの生き物との関りの歴史〉

ささのはですと飼っていたうさぎのりりーちゃん。が10/19(土)に死んでしまいました。かなりの高齢(たぶん10才位)で、今年の猛暑に耐えられるか心配で、毎日凍ったペットボトルを冷房用に入れていました。やとやと涼しくなってきたのに... とも文化センターのアレキパークが、たて頃、あの広い庭に大きな



うさぎ小屋があって、オス用、メス用別々で、下は地面、埋めた土管の中に穴を掘って家を作り伸び伸び暮らしていました。その後には柵付の草原の遊び場もあって、こども達が入って、いっしょに遊んでいました。それがアレキパークの改修工事が始まって、おがと取り壊すことになり、おと世話してきたささのはが引き取ることになったのがりりー達(お母は3匹)です。

歴史を遡ると、1981年野川こども文化センター開設時に着任したのが、児童館で動物を飼うことに情熱を持った職員でした。広い敷地で次々飼ったのが、ウサギ、ニワトリ、アヒル、バリエツ(アヒルの原種)、アライグマ、タヌキ、ヤギ、クジラ、サル...

その内日々学童保育のこども達が世話をしたのが「うさぎ」と「ニワトリ」です。「赤ちゃんが欲しい」とこども達(家畜)がオス、メス1匹にして産まれた赤ちゃんうさぎを「増やさない約束でしょ!」と物頭の館長に見やり、泣く泣く野川小に引き取って、おらしたこども(だから野川小のうさぎは、ささのはうさぎの子孫のはずです)。

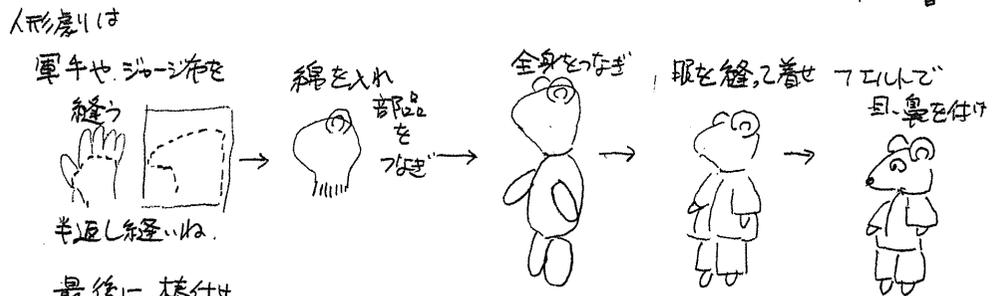
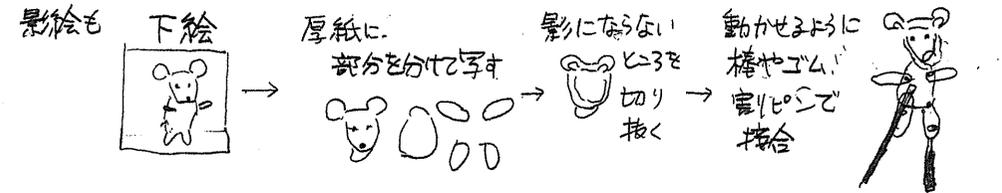
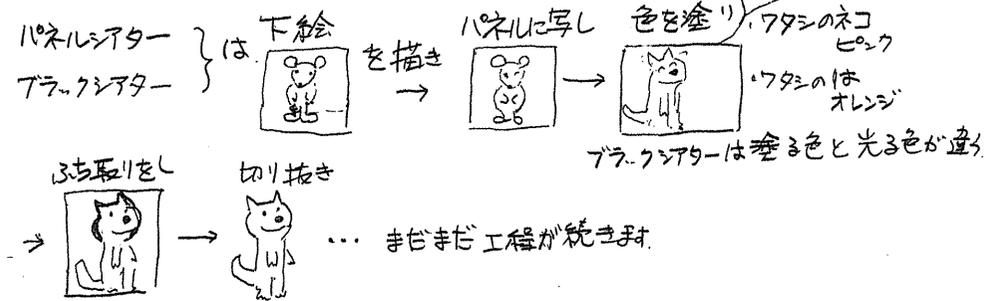
ささのはの家は、借家の規約には「動物を飼わないこと」でも「命には替えられない」と飼ってきました。でも場所は狭いし、遊ばせる場所もないし、かわいそうな飼う方でした。こども達は、エサをやったり、水をかえたり、頭や体をなでなでしたり、声をかけたり、みんなで大事にしていたりりーちゃんです。お幸振りに行きたい時も「ねーうさぎのおみせげにしよう」と小さいおじいちゃんをいっしょに連れて帰ってきました。「また飼える?」... そうだよ。でも、今の環境では難しい。壊れている小屋やまわりを片付けて、その小屋の中で、みんなが連れて来る、カブトムシ、クワガタ、カゲ、カタビエ、ハマキリ... が飼えるといいかなと考えています。

今週の当番の「うさぎ当番」⇒「掃除当番」にしようかと検討中です。

〈おたのしみ会の準備の今〉

今日から11月、前回の「たけやぶ」でリハーサル予定のおたのしみ出しをしました。「リハーサル、まだ、たどり着けるか?!」と、あせっているのは指だけ?

人形劇系は、製作の真最中です。



それぞれに一生懸命「次何やる?」「エー、クワガタ...」世話話をしたり、やさいお姉さんお兄さんに、「きのこもやったよ、半返し縫いは、こうやるんだよ」「絵塗る時はね、はみ出さないように塗るんだよ」と、優しく教えてもらっています。1年~6年がいろいろの出し物に取り組むので、練習の時のせいいまなざしや、ちょっとした緊張感(遊ぶ時とはまた違う)もあり、毎日光栄を見せられています。

次の「たけやぶ」で当日のプログラムと出演者と、音楽系の取り組みをお知らせします。